

アメリカ資本主義批判 第二部第五章 信用の利用(前半部)

p.228~

2000・11・8

報告:手島

信用の利用は、物質的対象や活動から分離してますます拡大するに至り、19世紀において価格制度は信用=価格制度に転化するに至る。しかし、19世紀前半ないし4分の3世紀においては事業界は信用の統制や組織化することはできず局部的偶発的的事変による債権債務関係の均衡を破壊し社会全般の混乱をまねいた。事業界の核心をなす大債権者と大債務者との間の利害関係は一致しておらず、つまり、鍵鑰産業は未だ大銀行と提携がなされていなかった。その後信用の安定は改善され、信用=物価水準はかなりの程度に統制されている。信用制度の安定の成果は細部から徐々に広がってきたが、他の新しい秩序が生まれるときの現象と同じくそれは熟慮的設計というより外的諸条件によった。信用増大の出発点は19世紀の90年代としその後の変化を論じる。

p.232~

信用制度の出発点にあったのは、モルガン財閥、マージャー(合併、合同)、持株会社金融などでありその契機となる。

持株会社 不在主義のいっそう完全な秩序

1. 法律上の所有者はその財産との個人的接触から離れて存在する
2. 所有者の要求とその財産に対する支配とは非人格的、数字的關係である
(量的配当の基礎、所有者の責任の軽減)
3. 所有者は自己の諸権利と諸権能を会社管理者に委託する

日常業務の標準化、信用の利用

兼任経営も持株会社の効用と同様である。

p.236~

モルガンは兼任経営制を利用し、その偉大な創意の導くままに同時代人や仲間達を遥かに超えた。鍵鑰産業といわれる事業経営は多数であったがその市場価値や有体資産の価値に比してすでに過剰に資本化しており事業収益は低下しつつあった。

p.237~

鍵鑰産業における頽廃は原料取得と市場向け送達に關しての運輸の面での位置的不便さと産業技術の間断ない変化にあった。未だ買収、合同による組織はこのことを吸収するには未熟であり、産業の将帥という古い支配権の存在も残っていた。

p.239~

未熟であった産業的公司は成熟に近づき、生産者は封鎖的市場を目標として競争的となる。生産能力の総計は終始市場の能力を超過していた。云いかえれば企業の望む価格水準では市場は狭隘となる。鍵鑰産業といえども収益能力の低下による信用能力の低落と負債は耐



えがたいものとなって、信用追加の必要に迫られた。

p.240~



一方、銀行界ではこの機会を巧みに捉え儲けようともくろむ。ここでアメリカの信用資力を統制的に利用することが発生する。銀行家が出現する。銀行が産業組織全体を支配することとなるが法律上の存在でなく事実上の存在である。銀行は会社信用の源泉であり媒介物である。銀行形態の初期においても会社財政の監督者であり資力の支配者でもある。

p.243~

銀行と主として鍵産業との関係は共同的行動(共謀)であって創意、裁量、洞察、統制において社会化し産業におけるアメリカの物質的福祉を左右するにいたる。初期(1890年代)からの経過をみると銀行が企業を巧みに操り支配権を得てきた。銀行家の特別賞与の意味は新会社の証券引き受け業者が取得するということである。更に新会社との共通な利害関係の惹起は、新会社の監督経営への支配権を握ることとなる。



p.246~

かくして<合衆国鋼鉄株式会社>の成立は銀行の安全のための合同と再資本化によるものである。信用価値の創造または新たな資産の虚構的創造の影に隠れて旧価値の再分配が遂行される。



p.249~

再組織により同一財産の相次ぐ再資本化が繰り返され会社資本の過大評価が正当化視される。この場合の銀行の目的は信用の新たな拡張によって資本化された新たな富の創造である。信用取引によって増大された過大資本化を正常なものとするほどの収益能力を得るに至ることを通常として基本的資産の価値を超過して行われたが、収益能力の増大により健全な正常な資産として証明されていく。

p.250~

この収益能力の増大は生産物の価格水準の高騰が生産費の価格低減による価格維持によっている。ただし、独占市場においてこのことは有効なのであって、鉄鋼、石炭においてのように共謀と共同的行動の結果である。共同的行動や共謀的統制はここでもやはり銀行家の過度の保守的精神によって安全か着実な方向をとることになる。

p.251~

銀行家の資格の喪失とは

銀行家の伶俐な行動とは

p.252~

銀行家の職業的倫理とは

p.254~

資力の将帥の不在的支配のための画策

(1)すでに吸収された信用証券の多寡、(2)一般的信頼、は統計的計量や簿記を通じて十分に統制できないものであって、このことが個人的誤差を生む余地を残しこの余地に関して安全第一で、不確実性や危険を回避しようとするところに生まれる共謀が促される。

p.256~

公正から逸脱することのできる事業会社とは

事業会社の株の配当が株主に十分なされるのかが問題となる。適格性を与えられた信用は実際の有体的無体的財産を超過して膨張した購買力で市場にのぞむ。商品供給の増大を伴わない購買力の増大は物価水準を上げる。有体的富の増大とは無関係に貨幣的価値における全体の社会的富を拡大することになる。事業者にとっては好都合なことである。

p.257~

事業者の信用授与者に対する依存度の増加の過程について

p.258~

信用の利用によって膨張した資産をもとに習慣的に金銭を久遠の実態とみなすようになった事業者は消費者が蒙る価格騰貴の損害から免れているのであって内省することもない。

p.260~

アメリカにおける投資銀行家たちの戒律は「利益実現の少しでも疑わしい場合には、産業的活動はやめておけ」という、ことである。